

広報 おぐに

No. 163

'82 11/15

手漉き和紙を
すいてみよう

森林公園で「手漉き和紙をすいてみよう」——と10月24日、紙漉きの実演を行いました。

新潟県観光キャンペーンに、小国町観光協会は「森林公園の無料開放」「きみがSL機関士だ」「小国和紙で舟を作ろう」「手漉き和紙をすいてみよう」の4つのイベントでとり組んでくれました。

この日は無形文化財「小国和紙」の実演ということで、中村英一さんと奥さんの雅さん(苔野島)が紙漉きを披露。あいにくのくもり空の日曜日でしたが、町

内外からの来園者で公園は大にぎわい。めずらしい「紙漉き」が始まると、ドツと人だかりができ「ホホウ」と感心したり、喜んだり。

また、会場では和紙製品(はがき、便せん、名刺など)の即売も行われました。中でも、小国和紙で作った「はがき」が好評。年賀状シーズンも近いとあって、「和紙にペン字でもあうかしら?」「毛筆は苦手だし……」などといしながらも、子供たちや若い女性にモテモテでした。



町の人口 10月31日現在 ()前月比
男 4,515人 (-7) 女 4,732人 (-8) 計 9,247人 (-15) 世帯数 2,303 (-2)
発行 小国町役場 (☎越後小国(025895) 3111(代)) 編集 総務課庶務係

保育園児募集

いま入っている園児も申請を!

昭和58年度の小国町保育園児を、次のとおり募集します。

入園希望者は、所定の用紙で保育園または住民課まで申請してください。

1. 募集人員及び区域

- ・やまなみ保育園(定員80名) ☎3285
区域……山野田、大貝、三桶、原苔野島、森光、小栗山、諏訪井、太郎丸、小国沢上岩田
- ・中央保育園(定員90名) ☎2029
区域……法末、楢沢、新町、上谷内相野原、二本柳、後橋金沢、八王子、芝ノ又
- ・若草保育園(定員120名) ☎2269
区域……法坂、桐沢、箕輪、上村下村、武石、押切、七日町上栗、原小屋、千谷沢鷺之島

2. 募集年齢

昭和56年3月までに出生した幼児であればだれでも申請できます。その他の年齢及び集団生活に堪えない幼児については、直接保育園に相談ください。

3. 申請方法

- ・申請用紙は各保育園及び住民課に備えてあります。新入園児の場合は、保育園または住民課に用紙を受け取りに来てください。その際、記入方法など詳しく説明します。
- ・現在保育園に在園している幼児も引き続き4月から入園希望の方は、新たに申請してください。なお、在園児についての申請用紙は、園児を通じて家庭にお届けいたします。
- ・申請書の記入については、申請書裏面に入園基準の注意事項があります。よく読んでから記入してください。

なお、基準に該当しない場合はご相談ください。

4. 申請期間

昭和58年4月からの入園希望者を次の期間に募集いたします。

昭和57年12月1日から12月20日までに各保育園または、住民課に申請してください。

5. 入園措置決定

入園申請を提出された幼児は、審査の結果2月上旬までに、措置決定通知書により連絡いたします。入園決定の通知を受けた幼児の保護者打合せ会は、2月下旬に計画しております。

その他不明な点は保育園にご相談ください。



町民福祉の向上をめざして

第1回住民福祉大会

社会福祉協議会では、法人としてのスタート10年目を記念して、さらに町民福祉の向上に前進しよう——と第1回住民福祉大会を開きました。

会場のおぐに荘体育館に約200名の関係者を招いて、感謝状の贈呈、意見発表のあと「明日の福祉を考える」と題し安原晃(越路町民生委員総務)氏の記念講話を行いました。

仙道を敷きつめておる木の実かな

五十嵐金平(上村)

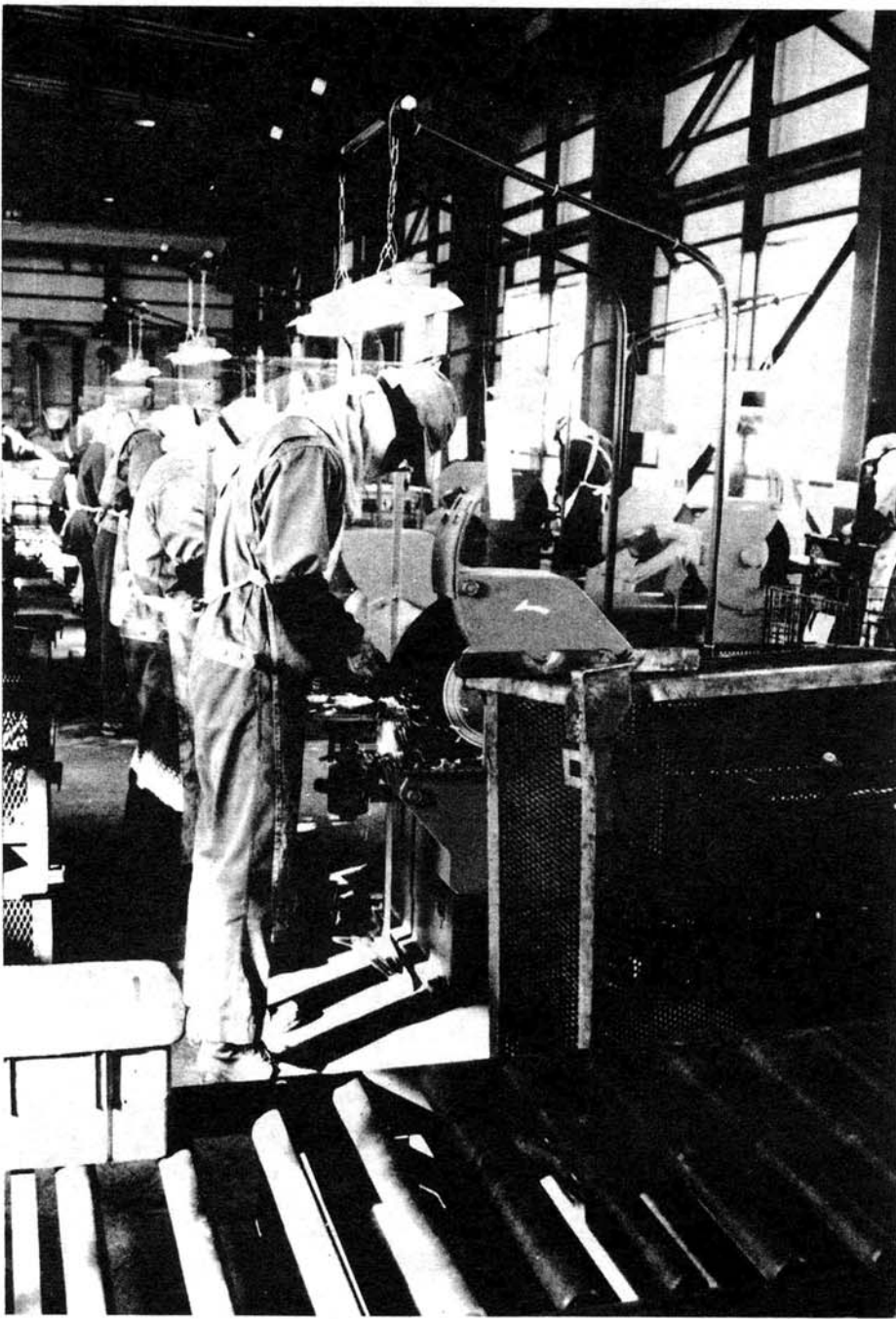
健康づくりコーナー



◆……ヨーロッパのことわざに「人美食するが故に王侯ならず」というのがあります。ローマの雄弁家キケロも「なんじは生きるために食すべきで、食うために生きるべきではない」といったといひます。

今もし、キケロや西洋のことわざを現代風に考えるとすれば、同じ生きるためでも「健やかに生きがいを持つ」「なんじは美食しても賢く栄養のバランス、適度な運動と休養を忘れてはならない」ということになりはしないでしょう

か。
◆……最近、若い女性や主婦に貧血が目立ちます。健康で快適な暮しをするには、日常生活で食生活を正しくしなければなりません。やせたい一心からムチャな減食をする傾向があります。また暴飲暴食や食べ過ぎからくる肥満にも問題があります。肥満は成人病にかかりやすく、短命であることも知られています。塩分のとり過ぎも考えものですが、摂取するカロリーと消費するカロリーのバランスにもっと注意を払いたいものです。



下請共同 作業所

横沢地内に建設を進めていた下請共同作業所が11月1日から操業を開始しました。

名称は「小国技研」（組合長・内山達太郎）と決められ、出資金を払って「経営者」になられた方は4名、一般組合員は11名でスタート。

仕事は、榊リケン（柏崎市）が全面協力、自動車部品の加工の仕事をお願いしました。将来的には製品検査から塗装、出荷と一選して行う計画で、従業員も30名規模にしたいとの構想で、そのためのスペースも充分とっております。

この下請共同作業所は、農村地域定住促進対策事業でとり組んだもので、総工費は7,035万7千円。このうち、国50%、県10%、町が40%を負担しました。工費の内訳は、工場事務研修棟が鉄骨平屋建（794.726㎡）で6,357万7千円、クレーンなどの設備費に432万円、設計監理費246万円となっています。

下請共同作業所としては、昭和55年12月から操業を開始している「浜海精器」（上岩田）について町内で2棟目です。

11月の納税

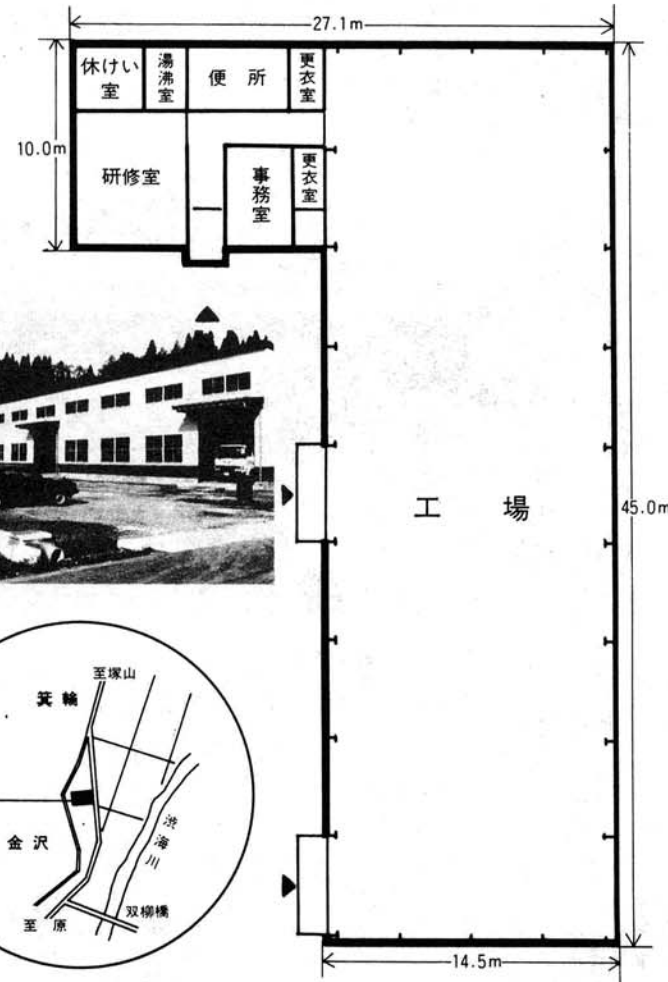
- * 固定資産税……………第3期
- * 国民健康保険税……………第8期
- * 保育料……………11月分



11月号のおもな内容

- 下請共同作業所操業を開始……………2～3ページ
- 保育園児募集……………4ページ
- 出稼者家族のみなさまへ……………5ページ
- 国道昇格・庁舎竣工記念論文入賞作品……………7～15ページ
- ひろば……………16ページ

操業を開始



ここです



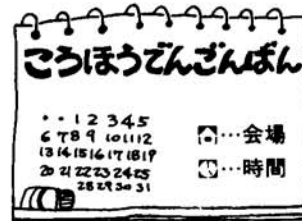
10月の交通事故

10月1日～10月31日まで

(柏崎警察署扱・人身事故のみ)

月・日	天候	時刻	場所	事故の概況	傷者
10・7	晴	7:30	法末	カーブ地点で、自転車と普通乗用車の衝突	軽1

夜間の交通事故に気をつけましょう!!



- 日曜診療 (☑午前9時～午後3時)
 - ・11月21日(日)上小国診療所(原)
 - ・11月28日(日)厚生連小国診療所(新町)
- 心配ごと相談
 - ☑毎週火曜日(午前10時～午後3時)
 - ☑延命荘(☎2027)
- 母子健康相談
 - ☑毎週木曜日(午前10時～午後3時)
 - ☑就改センター(☎3575)
- 補聴器相談(毎月第2金曜日)
 - ☑12月10日(金)午前10時～10時30分
 - ☑役場(☎3111)
- ママさんバレーボール大会
 - ☑11月21日(日)午前8時45分から
 - ☑柏高小国分校体育館
- おぐに荘映画会
 - ☑11月24日(水)午後1時から
 - ☑おぐに荘体育館
- 剣道大会
 - ☑11月28日(日)午前9時から
 - ☑柏高小国分校体育館
- バドミントン大会(男女個人戦)
 - ☑12月5日(日)午前9時30分から
 - ☑柏高小国体育館
- ぐらしの講習会(商工会青年部主催)
 - ☑午後7時30分から
 - ☑大貝公民館……………12月1日(水)
 - ☑法坂公民館……………12月2日(木)
 - ☑上栗公民館……………12月3日(金)

戸籍窓口事務の 時間延長の変更

戸籍・住民票の謄本、抄本、印かん証明の発行については、毎週水曜日に取扱い時間を(夜間)延長して参りましたが、利用実績の状況を検討した結果次のように変更させていただきます。

記

1. 月曜日から金曜日まで(休日を除く)昼休みの時間中も発行事務の取扱いをいたします。
2. 変更(実施)する日は57年12月1日からとし、水曜日の時間延長(夜間)は廃止させていただきます。

出稼者の家族のみなさんへ

ご主人に連絡するとき、ついでに次のことを聞いてください。「出稼先で社会保険と厚生年金に、加入したか?、しなかったか?」(加入した)と(加入しない)では国保と年金は、次のようになりますので(加入した)ときは必ず届出をしてください。

①加入した

- 1. 出稼先の給料から社会保険と厚生年金の掛金を引かれますから、町の国民年金と国保の保険料(料)は納めなくてよいことになります。
2. お医者さんに、かかっているときは出稼先の社会保険証を医院に持参して、保険証が変わったことを届出してください。
3. 町の国民健康保険証は使われませんので役場へ返してください。
4. 国民年金の保険料と出稼先の厚生年金の保険料を重複しても老後の年金は増えません。
5. 役場へ届出をしてください(10月の広報おぐに12ページを読んでください)。

②加入しない

- 1. 出稼先の給料から社会保険と厚生年金の掛金は引かれませんが、今までどおり町の国民健康保険料と年金の保険料と病院にかかるときの保険料などは変わりません、届出の必要もありません。

56年度の概要は次のとおりでした。

戸籍・住民基本台帳

Table with 4 columns: 57年3月31日現在, 世帯数, 人口, 戸籍の本籍数, 本籍人口, 住民票, 住民票人口. Values: 2,313, 9,243, 5,415, 16,850, 6,176, 15,466.

国民年金

Table with 4 columns: 区分, 世帯数(人), 世帯総額(千円), 世帯平均額(千円). Rows for 香取, 香取, 香取, 香取, 香取, 香取, 香取, 香取, 香取, 香取.

児童手当

Table with 2 columns: 別, 児童数(人), 児童手当額(千円). Rows for 0歳, 1歳, 2歳, 計.

国民健康保険

Table with 4 columns: 区分, 国民健康保険料, 国民健康保険料, 国民健康保険料, 国民健康保険料. Rows for 入, 出, 計.

庁舎建設資金の概要

庁舎の概要につきましては、先月号の広報でお知らせしました。この建設費の財源としては、積立てておいた建設基金、地方債、一般財源を充当しました。

*内訳は、
●庁舎建設
建設基金積立金の
とりくずし 3億13,207千円
町債 2億58,300千円
一般財源 (一部見込み含む) 88,249千円
計 6億59,756千円

●除雪機械車庫
町債(過疎債) 44,000千円
一般財源 2,250千円
計 46,250千円

Table with 2 columns: 町債, 一般財源, 計. Values: 44,000, 2,250, 46,250.

なお、町債は郵便局で取り扱われております、簡易保険積立金からの還元融資を受けるものです。

●除雪機械車庫

Table with 2 columns: 町債(過疎債), 一般財源, 計. Values: 44,000, 2,250, 46,250.



手鏡を合すうしろに柿紅葉 北原テイ(太郎丸)

文化の秋

収穫の秋

大にぎわい



＝産業文化祭＝

- 3位.....今井 勤(小栗山)
3位.....中村 鉄也(新町)

●ふるさと民具展

- 町長賞.....桑原喜三郎(箕輪)
議長賞.....鈴木市太郎(上岩田)
ふるさと民具組合長賞.....

- 片桐金四郎(小栗山)
(仮)若月商店賞.....村山誠一(小国沢)

●錦鯉展

- 町長賞.....小川 増友(新町)
議長賞.....永見 恒太(下村)
錦鯉組合長賞.....桑原 重夫(箕輪)

●たばこ謝恩セール当り番号

- 54、12、51、17、80、18、88
景品引換えはお買上げのたばこ販売店へ。

●たばこピラミッドクイズ

- 正解は.....199個
応募総数 199人
・ピタリ正解賞(2人)
橋本竜司(三桶)、中村志(箕輪)前後
残念賞11人の方にも賞品を贈りました。

●入賞3点、新潟県錦鯉品評会

- 10月31日、小千谷市で開かれた新潟県錦鯉品評会に小国町錦鯉組合から14点出品し、次の3点が入賞しました。
総出品数 1,272点

●第1部変り物の部

- 優勝3席...小原俊寿(あいごころも)
準優勝...長谷川俊郎(すみごころも)

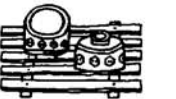
●第7部三色の部

- 準優勝...大橋義治(大正三色)

当町の人権擁護委員は次の方々です。

- ・松田金平(法坂) ☎2067
・中島 猛(太郎丸) ☎2251

柏崎市柳橋町4番16号
新潟地方事務局柏崎支局
柏崎人権擁護委員協議会



献血ありがとうございます

10月20日の献血で次の方々に献血功労彰が贈られました。

- 献血30回
笹崎繁、山岸宏、藤田豊
●献血20回
辰野敏雄、高橋一己、福原実
●献血10回
青柳ユリ子、細金茂雄

柏高小国献血協力校表彰

10月19日、本年度の献血協力校として柏高小国分校が県知事から感謝状を受けました。小国町の献血者は、56年度一年間に642人ありましたが、分校生はこの約20%を占めています。これからもご協力をお願いします。

署名は自分で書きましょう。

【直接請求署名の注意事項】
ことしも、「公民館の10月15日」の県条例制定の直接請求署名が行われます。署名をするときには次のことに注意しましょう。
1. 自分で書いたものでない署名は無効となります。
2. 印かんを押すときは.....
*印かんを押していない署名は無効となります。
*同一家族で同じ印かんをつかっても有効です。
*自分の「ほ印」も有効です。
3. 請求代表者または、委任を受けた者以外の者が収集した署名は無効となります。
*回覧による署名は無効となります。

人権週間

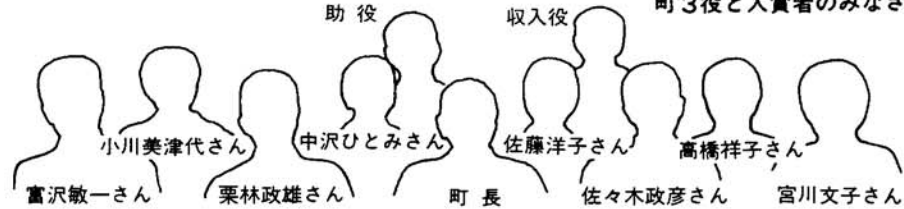
今年は、1948年12月10日に世界人権宣言が採択されてから34年目に当たります。この日を記念して12月4日から10日までを「第34回人権週間」として、広く国民に人権意識を高めるために呼びかけています。今年の人権週間の強調事項は、
1. 「人権の共存～互いに相手の立場を考えて、豊かな人間関係をつくろう」
2. 「部落差別をなくそう」

3. 「婦人の地位を高めよう」
4. 「障害者の完全参加と平等を実現しよう」
.....の4つです。
私たちの日常生活に水や空気が欠かさないように、私たちがしあわせな生活を送るためには、おたがいに人権を尊重しあうことが必要なことであり、大切なことでもあります。
万人権がおかされたときや、お困りのことがありましたら、お近くの法務局か人権擁護委員に相談しましょう。相談はいつでも無料で秘密は守られますので、安心してご相談ください。

明日の小国を考える



町3役と入賞者のみなさん



選評

国道昇格・役場庁舎竣工
記念論文審査委員会
委員長 野田喜代治

このたびの論文募集に応募された町民の皆さんにまず敬意を表します。ここに公表いたします入選作品は、小国町から委嘱を受けました6名の審査委員が慎重な審査を重ねて選定した作品であります。「中学生の部」及び「高校生の部」においては、いずれも優劣をつけ難く、各々3編ずつ佳作として選定いたしました。また「一般の部」につきましては、優秀1編、佳作1編を選定いたしました。一般の部への応募作品はいずれ劣らぬ力作ぞろいでありました。中学生・高校生の皆さんには、特に多数の応募をいただきました。難しい論文のテーマであったと思われませんが、生徒の皆さんが真剣に「あすの小国町」

について考えていただいたことは、大きな意義があったと考えます。論文の内容は、行政への期待や自然保護、親切運動、交通問題そして森林公園などが多く取り上げられていました。いずれも中学生、高校生の目で見つめ、そして体で感じている小国町の姿が浮き彫りにされています。大きな夢や空想よりも、生活実感に基づく現実的な思考が強く、現代っ子気質がよく現れており興味深いものがありました。論文全体を通じて「明るい町づくり」へむけての共通した精神が感じられました。それは「郷土愛の精神」です。「小国を愛する人の心・人の気持」がどの作品にもあふれていました。これからの町づくりへ、今回寄せられた多くの提言を参考にし真に「明るいあすの小国町づくり」に町民一人ひとりが、それぞれの立場で努力し合うことを念願するものであります。一言付け加え選評といたします。

庁舎竣工
国道昇格

記念論文入賞作品

15ページまでつづきます。ごらんください。

《中学生の部》

佳作

明るいあすの小国町を考える

佐々木政彦 (小国中3年)

4月から、小国町の2本の県道が、国道291号線と404号線に昇格しました。これは、今後の小国町の発展に、とても大きな役割を果たしてくれると思います。

これと同時に、両どりの小千谷市、柏崎市にも高速道路が通りました。こうなった今では、小国町からの、旅行、通勤、輸送などの範囲も、ぐんと広くなり、時間も短縮されることでしょう。このこ

とを活用して、何か出来ないものかと思えます。今、小国町にもいくつかの、機械、衣類などの小さな工場があります。しかし、これだけでは、どうも満足できません。

ん。

今では、ずいぶん減ってきましたが、冬になれば家を離れて、遠くまで出稼ぎに行かなければならない人もいます。

ほくの家でも、4・5年くらい前までそうでした。考えれば、1人欠けただけですが、とても淋しいものです。

新しく出来た道を大いに活用して、通勤バスを出したり、小国町にも食品、機械類などの工場を増やし、ある程度の年齢まで働かれる工場がほしいものです。

また、このせまい小国の盆地にも減反が言われている時代、この土地を利用して、畑作にも力を入れるのです。中には、町営の農場も作り、採れた野菜類は、青果市場をつくっておき、そこに集めます。それも、やはり新しい道路等を使って、各地へ出荷出来るようにするのです。いいかえてみれば、地理で学習した青森のりんごのようなものです。

青森のりんごは、まず弘前に集められ、そこから全国へと出荷される。その小型です。

それに付け加え、小国の中の各家で、野菜が多く採れた場合は、自由にその青果市場へ出せるようにし、小国の各商店もなるべくそこで仕入れを済ませるようにするのです。

それから、小国町には今ではもうずいぶん知られた、森林公園があります。

毎年夏になると、レクリエーションに、県内外からも大勢の人々がやって来ます。それに加え、法末の方でやられている民宿をもっと広め、民宿あつせん所をつくって、小国の人達はよその温泉旅行へ出かけるだけでなく、今度は大勢の観光客を小国に迎えたら、小国も生活が今以上に良くなると思います。

その時は、いくつかの小国町独自の土産物を用意するのです。

それに、最近ではバスが大貝まで通るようになったというのを聞きました。「広報おくに」にも、そのことが表紙裏からデカデカと「大貝にバスが通る……」という見出しで、内容が書いてありました。

明るい小国町の発展

宮川文子 (小国中3年)

佳作

小国町の未来。これは、今からこの町で生活していく私達にとって、とても大切なことだと思います。自分達の生活していく場が、いつまでも暮らしやすい所であってほしいと誰もが望んでいることでしょう。

都会の人達は「田舎は、広々としていて、のんびりできるなあ。なんてことをよくいいます。でも、広々としてのんびりできるということは、都会の人達に何か物足りなさを感じさせているような気がしてきます。田舎という文字は、田の中でのさ。小国は、こんなイメージをもたせるのでしょ。でも小国は、都会の人達の安らぐ場としてだけあるのではありません。私達が生活していくための場なのです。

最近、小国町でも町民の中での協調性を養うための意味で、いろいろな行事が計画されてきました。例えば、夏休みに行なわれる中学生の部落対抗野球大会。その他に種類の豊富なスポーツのサークル活動。そして、毎年恒例となった町民体育大会。また、スポーツ面だけではなく、数えきれないほどの色々な行事が行

われています。これは、とても良いことだと思うのです。これからもこのような活動を増やしたり、充実させていってほしいと思います。そのためにはもっともっと町民の活動意欲を盛り上げていく必要があると思います。

今、私の姉はバレーボールの一つのグループに入っています。その練習日数はさまざまですが、週3・4日くらい出る日もあります。これはとても熱心なことだと思います。全町民がこんな風だとはいいないでしょう。全員の参加というのは無理かもしれないけれど……。でも、自分で住んでいる町のために自分のもつ能力(何でもかまわないと思いますが)を働かせるなんてちよつと素敵なことだと思います。

小国は交通不便なところだということを感じます。よく家の人などの話でも就職する時に、小国は駅が遠いから不利だったりするのを聞きます。このような交通面での不便を改善することが必要だと思います。

小国町にはいろいろな施設が開設されました。老人のための延命荘。また、最

開通の様子を写真で見ると、部落のほとんどの人がそこに行っていて、とても喜んでいるようでした。それに「待ちに待った『足』が確保され、大貝部落は、大よろこびでした。」と、書いてありました。

今度は、法末へのバスも通したり、八王子、大貝、三桶方面のバスが冬でもストップすることなく、1年中交通の便が良いようにするのです。こんな希望がどんどんと、出て来ます。

さらに、秋には小国町役場の庁舎も完成します。そうすれば町議会議員や、役場職員全員は、また新たな気持ちで頑張ってくれることでしょう。そして、今挙げたようなことに取り組みで少しずつでも小国町が発展していくよう努めてほしいです。

しかし、もう10数年たてばほくたちも政治に参加するようになります。だから、今からでもみんなが将来の小国町のことを少しずつでも考えて、小国町を立派にして行きたいものです。

近では多くの障害者のために置かれた「おくに荘」ができました。おくに荘の人達が長い列をつくって散歩している姿が、毎日のように見られます。それらの姿を見ると、うれしく思えてくるのです。小国のありあまった広い土地をことうふうに利用するのは、小国の町民としてとても喜んでよいことだと思うのです。

さつき交通面での話をしました。最近、私達の住む町もちよつとした観光地として見られてきたようです。それは「森林公園、があるからでしょう。この公園ができてからもう数年たちました。こういう事は小国町のような線に囲まれた所では自然界の破壊なんて言葉はあてはまらないかもしれませんが。それに代わって「小国町の発展のためには良いことだ。」と思う人も少なくないでしょう。それは、みんなが楽しめるために誰かが計画立ててくれたのだから…。

このような事は、これからもずっと考え続けていってほしいと思います。ありあまった野山をそのまま保存して一と、いうのもいいかもしれませんが、切り開いてもう一度見直してみるのも一つ

の方法なのではないでしょうか。少なくとも、私は小国の町民として小国町の生活向上のためだったら開発に努める

のもいいのではないかと考えています。そして、そうした事によりいろいろな面で収入を得ることをもう一度考えてい

てほしいと思います。これからの私達、小国町の未来のために。

佳作

明るい明日への小国町を考える

高橋祥子 (小国中3年)

「国道が出来るんだってさ。」
「国道？小国に？」
「ええっ！」

明るいニュースが私達小国住民をとりまいた。喜びを誘い、なぜか誇りをいっそうきわ立たせたような気がします。

「私達の町に国道が走るんだ。」信じられない気持ちでいっぱい私は、夢を見ているようでした。友達の話がまだ信じられなくて家へ帰ると、すぐに田に問いかけたのでした。「お田さん、国道が出来るってほんとう？うそじゃないの。ねえ、ほんとの。」「ほんとうよ。」それを聞いて確かなんだと思いました。と同時に「これで長岡や柏崎にだって負けないぞあつ」と思ったのです。今では、そんなふうに思っては、いけなかつたのだとはつきり分かります。でも一時的に思っただけは確かです、いくらいけなかつたとしても、うそはつけません。高速道路、商店街、国道、と見ても、どれ一つとして小国が肩を並べるには、ほど遠く周囲の街の忘れられた枯葉のような、かすんだ存在に思われたからです。ですから私はとっさに、街と肩を並べる程度に近づいたと、喜びを感じたのです。いけませんか。

周りを山で囲まれた盆地の町。緑にも恵まれ、空気のきれいなこの町にも昔からたいそうなごだつたことがありません。交通が不便だったことです。川を下って塚山へ、峠を越えて小千谷・柏崎へと行くには、相当の労力を費やし、時間をかけなければならなかつたそうです。

祖父田の話に耳を傾けながら、昔の人々の苦勞を思いました。

「昔は弁当持って隣の町へ買い物に行っただがね。便利になつたもんだ。今じゃ道も舗装されてほんに楽になつたけや。」

確かに今は道路も舗装されているし、自動車もあります。隣町へ行くのにも1時間と時間を要することも、まずありま

せん。半日もかけて歩いて、帰ってくるころはもう陽がとつぷりと暮れて……。真っ暗な夜道を疲れた足で帰って来なければならぬ。ましてや街灯のあるはずがないのですから、今考えたって昔の人の気持ちなんて、とうてい分かるはずがないのです。わかつたって無理なのではないか。幸せだからなのでしょうね。そのうえ国道が町を縦横に走るのだから「小国も良くなるなあ」と実感として私達に伝わって来ないはずがありません。

しかし、ただ1つだけお願いがあるのです。自然を破壊しないで欲しいということです。前にも述べたように、長岡や柏崎にくらべれば、商業も劣っています。工業も劣っています。でも私には、小国住民として誇りがあるのです。その理由の多くをしめているのは豊かな自然だと思えます。よそにはない小国独特の森・林。好きです。小国の町をこの上なく愛しています。小国に生まれて、小国で育つたことを誇りに思っています。幼いころから自然が遊び相手であつて、親しみを感じていたせいか、私の町は緑の町なのだと思えないのです。いくら田舎だと言われてもいいのです。緑があつたの小国町だと思えます。

いくら便利になろうとも、スモッグで空がくもつたり、緑が私達から遠のいてしまうのではいけません。そんな町には住みたくありません。

私の頭の中に1つの理想の町があります。便利でおかつ、自然に包まれた町が……。2つ並立してそんな都合の良いようにはならないと思いませんか？私は思いません。何分の1の確率であろうとも努力すべきです。自分たちの町なので

生きることの喜びを教える町。それが、これからの小国町なのではないでしょう

か。住み良い町づくり。私達の手で作るうではありませんか。私らのような、ちつぽけな体でも何か手伝うことができませんか。ふるさと小国を大きく育てるために。

法坂に見えるレンガ色の建物、「小国町役場」の建設も着々と進んでいるようです。設備の整つた建物の中で働く人々の気持ちが今からうかがえるようです。新しい気分で町民のために働いてくださることを願っています。

小国を去っていったみなさん、過疎化の大きな悩みをかかえた小国町にも、こんなに良いところがあるのですよ。帰って来ませんか「ふるさと、へ。小国の町へ。名前が小でも内容は大きくなるこれからの町。私達の町へ。雪が多くなつていいじゃないですか。雪ほりで苦しむ子供よりも、雪で遊べない子供の方がずっと不幸だと思えます。

自然の豊かな小国町のこれからの発展を願って私達は生きて行きます。いえ、自らの手で町を発展させて行きます。なぜなら、小国町が好きだからです。自然を愛する緑の町へ。私達の思いをこめて。国道が出来て、排気ガスで空気が汚染されることがないとは言いきれません。草花が枯れないとも言えません。最小限にとどめることが大切なのです。とどめる工夫を考えてください。

では最後に、未来の小国町のために、万歳、万歳。

《高校生の部》

佳作

小国町の産業について

小川美津代 (柏高小国2年)

(1) 前おき
小国町は周囲を山に囲まれた盆地である。町を流れる茨海川は水源となり、気候は深雪の冬期間を除けば温暖である。そして、環境も自然がそのままの姿で残っていて、住みよい土地である。しかし、自然というのは美しい中にも荒々しく、激しいもので私たちに数々の困難な問題としてのしかかつて来る時も少なくはない。この自然に満ちあふれた町にも社会の波は大きく私達を襲って来る。現在、日本の高度経済成長の著しい中で小国町の産業の現状、そして、それをどう乗りかざるかを考えてみたい。

(2) 稲作中心の小国町農業
小国町の中心的な産業といえば、気候、土地などの風土に適している農業である。現在の小国町の農業は稲作中心である。土地改良農業技術の改善、機械化などで増産意欲が高まり、収穫の量も増えつつある。そんな中にも高度成長の波は襲って来て、この稲作までもが曲り角にきている。そして、政府は45年減反政策に踏み出しているのだが、農家にとって青天の霹靂であつたにちがいないだろう。水田を畑にして、転作をしている人々も少なくないと思うが、今まで土地改良につとめてきたのに、このようになるのは残念であると思う。日本は高度経済成長はたいへん著しかったけれども、このことで農業全体は徐々に行き詰まり、大きな打撃を受けているのである。需要と供給はうまくかみ合わず、農産物は過剰生産の傾向が年々強くなる一方である。古米古米などの問題である。

昔は鶏・豚・牛・蚕などを飼育していた家も多かつたが、現在では数が減少している。これらはすべて零細経営では採算がとれないからだ。これは稲作にも言えることであるが、土地生産性は高いものの労働生産性は低い。農業生産物の価格が一定の水準より高い割には、農業所得が低い根本的な原因となっている。もっと安定した経営ができないのでしょうか。零細経営では成り立たないのだろうか。規模を拡大するためには、土地・資本を多く必要とし、物価の上昇などで困

難であることは、頭の痛い問題の1つである。このように農業は困難になり、他産業に迫付くどころか、つき放されていくばかりで、そのため他の産業との所得水準の格差がますます大きくなっている。その結果、農業人口は他産業へと移り、専業農家は減少し、第1・2種兼業農家の増大が目立ち、片手間農業にすぎない状態になっている。そして後継者はいなくなり、若者は離農し、町を離れて行くなど多くの問題を抱えている。でも、決して農業の将来は暗くはないと思う。小国町の農業の再建への努力を切望するのである。この問題を解決してこそ明るい道は開けてくると思う。

(3) 町民の生活を支える工業
その反面、工業の発展も欠かせない状況になっている。小規模ながら各種メーカーが、小国町に工場を設立したからである。農業の進歩により、農作業に携る時間にある程度の余裕が出来るようになったためだろうし収入も決して得られることから工場でも働く人々も主婦を中心として増加している。工場の種類は製菓・縫製・弱電関係などが主なものであるが収入はいずれも決して高くはないようだ。これらの工場は景気に左右されがちである。基盤がやや弱いということなどに問題があるが、小国町の住民の生活を支えていることは事実である。工業は現在農業と同じくらい大きな柱となっている。工業をさらに発展させ、農業とうまく調和させることが今後必要だと考える。

(4) 町の発展と道路交通
小国町はまだ十分に発展の余地はあると思うし、これから期待される土地だと思う。産業の発展には道路と交通機関の発達が必要である。これらが発達することで、文化・経済の交流や交換が著しくなり、他の土地からも新しい物を受け入れられる。輸送手段も進歩してきているので各種生産品などの出荷や人の交流も保証されてくるだろう。
しかし、冬期間の深雪は悩みの種である。冬の道路の確保を図ることは、イコール産業振興を図ることだと思う。最近

では除雪機械も多く使用されているし、消雪パイプも多く普及して道路は管理されているが、一部の道路では消雪パイプの機能が十分でなく、交通の妨げになる所や水が道路に溜まっている所があり、消雪の役割を果たしていないようなこともある。もう1つ、気になるのが各家庭での除雪の際に、雪を道路に捨てる人のいることだ。気持ちはわからないわけでもないが、そのために交通が妨げられては、何のための消雪パイプかわからなくなると思う。そんな小さな事でも物質輸送の発展に影響している。小国町にとって冬場の交通はとても重要なのはだれもがわかっていることなのだから。

(5) 期待できる小国町の発展
この他に、行政としてはなんとしても、冬場の出稼ぎ対策としての産業開発を考えてもらいたい。小国町の産業の発展を支えるために大切なことは小国町に住む人々が一体となり、町づくりに努力することではないだろうか。小国町は十分発展する余地がある前途洋々の町であると思う。



次ページから 高校生の部です

佳作

小国の未来

佐藤 洋子 (柏高小国1年)

小国という所は、山にかこまれた盆地で、田舎だ。でも私はこんな小国が好きだ。いつまでも、そのままの小国でいてほしいと思うこともある。しかし、小国は何かと不便なことが多い。例えば、小千谷へ行くときなどバスが少ないのでたいへん困る。また、長岡へ行くとしても、とても時間がかかってしまう。そして、小国にはこれといっておもしろい所もない。しいて言えば、森林公園くらいだろうか。しかし、その森林公園も一度行けばつまらない所だ。でも小国で一番開けているのはやはり森林公園しかない。これから少しでも、発展しなければならぬ小国としては、この森林公園をもっと利用しなければならぬと思う。では、どう利用すればいいのだろうか。

人間はいつも同じだと飽きてしまう。だから今までとちがうこと——例えば、遊園地など造って見たらどうだろうか。そうすれば、子どもは喜び、それがおもしろければ何回もくるようになるだろう。また温泉もいいと思う。考人のいこの場としても使うことができる。

そして、小国が少しでも発展すれば若い人たちが東京などへ行かなくてもいいかもしれない。小国が発展するには若い人の力が必要だ。でも、今の小国に若い人の働く場所がそんなにあるだろうか。小国の発展には工場も必要だと思う。工場だけではなく、会社やデパートもあれば理想的だと思う。

しかし、これは本当に理想だ、だからできる可能性は少ない。では、もっと確実なものはないだろうか。

小国には広い土地とたくさんの森林と雪がある。これをもっと利用したら——しかし、何に利用すればいいのか。

土地の利用としては、前にも書いたように会社や工場がある。

これからの日本は、森林も必要だと思、う。そうすれば、この小国の森林を利用すればいいと思う。でも、あまり切りすぎて大雨などの時危険だ。これは、少し無茶だけれど、柏崎と小国・小千谷と小国の間の山をなくしてしまえばそんな心配もないし、柏崎・小千谷と近くなれる、本当に無茶だけれど20年、30年たてば、本当にそうになっているかもしれない。

新篇、特に小国はとてもたくさんの雪

が降る。雪はいやだとばかり言っていない、スキー場などを造つたらいいと思う。そうすれば、夏は森林公園、冬はスキーというふうに1年中楽しめる。これを利用しないのはもったいないと思う。

今の小国に必要な施設は、会社やデパートもそうだが、交通機関・学校・老人ホームなどがより必要だと思う。昔、小国にも駅を造っていたら今はきっと、長岡のようになっていただろうと思う。昔の人は小国の未来よりも、自分の土地のほうが大切だったのだから。また、もう少しバスの本数を増やしてもいいと思う。山野田や法末にはバスが通っていない。小国をもっとよくしようと思うのなら、そういう所にバスを通すべきだと思う。次に学校だが、もう少し工夫してほしい。例えば食堂とか、あるといいと思う。学習する所と、ごはんを食べる所が一緒というのはあまりよくない。また教室も広くしてほしい。2年生は人数が多くてとても勉強する所とは思えない。他には廊下やトイレをもう少し広くしてほしい。今のままだと全員が使うには数も少ないし、時間もかかりすぎる。もう少し考えてほしい。

また、老人ホームも必要だと思、う。延命荘もあるけど、あそこは時々集って話をしたりする所で住む所ではないので、やはり老人ホームは必要だと思、う。

小国の10年後は、いったいどうなっているのだろうか。もしかしらしたら今とちつとも変わらないかもしれない。また、今よりひどくなっているかもしれない。例えば、若い人はほとんどいなくなっていて、いるのは老人だけ……とか。10年後といえば、私達は25歳でいちばん必要な年だと思、う。その大切な人達がなくなってしまうだろう。また、逆の場合も考えられると思、う。田んぼはほとんどなくなっていて、そこには会社やデパートが立っていて……そんなふうになっていたら、本当にいいのに……

小国の20年後——いったいどうなっているのだろうか。20年後といえば私達は35歳。まだまだ働ける。私が20年後、この小国にいるのかわからないのかわからないけど、少し考えてみたい。そのころに

は、女の人でもほとんど自動車の免許をもっていて仕事でも、重要なことをしている人がいっぱいいるだろう。そして、ほとんど田んぼはなくて、男の人は会社員、もしかすると駅もできているかもしれない。それから家はほとんど新築して、3階建てとか、いろいろあるんじゃないだろうか。

小国の30年後は、いったいどうなっているのだろうか。30年後といえば45歳で、子どもはたぶん高校生くらいかな。そして私はいっしょうけんめい働いていたりして。そのころには、デパートや喫茶店・レストランが立ちならんでいて、にぎやかかな。そして、もしかしらたら山はなくなっていて、柏崎に10分くらいいけるかもしれない。そして駅もできていて、タクシーやバスがたくさんならんでいて、長岡や小千谷から遊びにきている人がいたら、すごくいいと思、う。

私は小国が好きだと、一番初めに書いたけれど、2つくらいな所がある。1つは、人のことを何かとウワサすることだ。そして、人に遠慮して生活していくことだ。そしてもう一つは、人がやらなければ自分もやらないということだ。これは人がやっているから自分もやっていると、これは人がやっていないから自分もしないなど、こんなことが続くかぎり小国は一生このままだと思、う。

明るい小国をつくるためには、論文を書くだけではだめだと思、う。大人の人の積極的にやろうとする気持ちが大切なのではないだろうか。だれかがしなければやらないという考え方は捨ててほしい。今、小国を発展させることができるのは私たちではない。大人の人のためだから。自分のいる町を発展させる気持ちになってほしいと思、う。そして、どんどん田舎から都会へと変えていってほしい。都会になるには何年、何10年かかるかなんて、わからないけど、みんなが協力してやればできないことはないはずだ。

私はこの論文を書くまでは少しも小国の未来のことなど考えてなかった。しかし、これからはそれではいけないと思、う。真剣に考えなければならぬ問題だということがよくわかりました。

佳作

明るいあすの小国町を考える

中沢ひとみ (柏高小国3年)

私達の住んでいる小国町は、縄文時代頃から人が住みついたそう。山々に囲まれた盆地なので、昔は敵を防ぐのによい土地だったが、今は盆地ということで小国町の発展に影響していると思、う。しかし、昔にくらべればずいぶん発展したと思、う。私が見た範囲でもそう。小さい頃道路はほとんど土で小石がごろごろしていた。車が通り過ぎると土ぼこりがたつた。雨が降ると、あちこちに水たまりができ、車によく水をかけられたものだった。今では土の代わりに、アスファルトが敷きつめられ、その上、冬は雪が積もらないように、消雪パイプまで通っている。車を運転する人や歩行者にとって、大変ありがたいことだ。

小国に歯医者が少ないということで、千谷沢に新しく歯科の診療所ができた。みんながスポーツを楽しめるようにとテニスコートもできたし、プールも増えた。町に2本の国道もできた。こんなふう書いていたら、きりがないと思、う。いろんな物ができてきて、私達の暮らしは楽になったと思、う。しかし、また多くの問題が小国町にはあると思、う。

交通面で言えば、小千谷へ行く場合。小千谷方面へ行くバスは1日に3本、小千谷から小国に来るバスも3本、長岡方面へ行くのと違い乗車人数は少ないかもしれないが、もっとバスの回数があつてほしい。小国町の中で、法末・山野田の人たちは大変不便だと思、う。病院に通うにも、買い物に行くにも、平地までくのに自家用車を除いては交通手段がない。自転車あるいはバイクなどを運転できないお年寄は、なお困るだろうと思、う。交通面ではこういう所をなんとかして欲しい。

テレビなどでもよく放映していることだが数10年後の老人の増加問題がある。医学の発展とともに平均寿命が伸びたことなどがその理由である。老人が増えるということは、それだけ病院に行く人数も増える。小国町には今医院が1つ、診療所が2つあるだけで病院の数が少ないと思、う。老人増加という意味で入院などをする人もふえるだろうし、町内に1つでも入院設備の整った老人病院があれば、家族の人も安心できるだろうと思、う。それともうひとつ思、うのは、外科・眼科・

耳鼻科などの医院があればいいなあということ。眼科・外科・耳鼻科などは私たち高校生や、小・中学生もよく利用するからだ。町内にあれば通院するにも楽であるし、授業時間をあまり欠かないという良い点があります。

老人増加に対して病院の設置も必要だが、福祉の点にも力を入れなければならないと思、う。小国町に年老いた親を残し、他の地域へ引越したり、子供たちが親元から離れてしまった場合、ひとり暮らしの老人や、寝たきりの老人が増えることはあたりまえです。そうした人たちの生活を守るために、ボランティア活動をする人が、必要となります。今私の部落にもひとり暮らしの老人が2人います。1人の方は息子がよく訪ねてくるようですが、もう1人の方は子供もいません。遠い親戚が1軒あるだけで、ボランティアが1週間に1回来る日を楽しみにしているようです。また、老人クラブなどの活動をさかんにし、人と接することの少ない老人の交流の場を増やし、老人が生きがいを持ってたら私は思、う。「亀の甲より年の功」老人から学ぶことはたくさんあると思、う。今の老人がいたからこそ、私たちがいるのだから、大切にしたいと思、う。

私の通っている高校では卒業すると、ほとんどの人が就職である。県内に就職する人は少なく多くが県外、主に関東地方への就職である。町の人口の減少が少しはおさまったものの、これからやはり減少していくと思、う。出稼ぎも以前より減ったものの、まだ行われています。若者の町離れ、過疎の防止、出稼ぎ者をなくすために自分の家から通える職場があればと思、う。兼業農家の人にも都合のよい、そして若者に魅力のある職場であればと思、う。また、中高年齢者が増えるので、その人たちのための職場もほしい。農業と工業がうまく調和した小国町になればと思、う。工業が発展することによる汚水とか、大気汚染などの公害や、自然破壊は絶対あってはいけないと思、う。

自然破壊という小国町は、それほどでもないような気がする。それでも浜海川の水は汚くなったというし、川にゴミが浮いているのをよく見かける。昔の浜海川という、水がきれいに澄んでい

て、魚がたくさん泳いでいたそう。森林公園ができてから何年かたつ。県下最大のグリーンレックがあることは、私にとつてうれしいことだ。ミニSLもあつて子供達にも喜ばれている。しかしまだまだ小国町には娯楽施設やスポーツ施設は少ない。子供たちの遊ぶ公園・自然を生かした遊歩道などがあつてもいい。娯楽とは違つた図書館や小国の歴史・文化財を集めた資料館もあれば小国町の文化財の保存もできるし、それを見ることによつて小国についてあまり知らなかつた人も、知ることができ、関心を持つ人も増えます。図書館は、就業改善センターにあるが、利用者は少ないよう。冊数も少ないと思、う。もっと興味をもてるような本を増やしてほしい。

今年、小国分校の入学の募集が2学級にもどされた。私にとっては嬉しいことだ。自分の高校でもあるからだ。昨年、学級減が行なわれた後、町のみなさんが一生懸命になって署名を集めてくれたおかげだと思、う。「分校というのは、独立校になるか、廃校になるかのどちらかだ。」というのを聞いたことがある。もし小国分校が独立校になるならば、これほど良い事はない。廃校になったとしたら、これほど悲しい事はない。自分の卒業した学校が姿を消してしまうのだから。もしこの町から高校が無くなつたら、中学を卒業した生徒たちは、全員・長岡・小千谷・柏崎の高校へ行かなければいけない。もし経済的に都合の悪い人があつたとしたらどうするでしょう？町内に学校があれば通学費や下宿代もかからずに済むし、往復2時間の通学時間を有意義な事に使えるかもしれない。私としては、ぜひ小国分校に独立校になってもらいたい。今、小国分校の評判はあまりよくない。小国分校が廃校になつてから、やっぱり高校があつて欲しいと思、う。ということでは遅すぎる。絶対になくしてはいけないと思、う。小学校から高校まで教育はとても大変なことだと思、う。未来の小国を担う人を育てるのだから。

「明るいあすの小国町を考える」ということで、考えてみたことを羅列してきました。大切なことは、町民の意見をひとつひとつ取り上げ、それを真剣に考えて欲しい。小国町はまだこれ

から発展する町だと思ふ。教育・文化・スポーツ・観光・交通・医療・農業・

工業・商業これらを調和よく発展させることが、町民にとって暮らしやすい幸せ

な生活のできる小国町になるんではないかと考えます。

《一般の部》

優秀

明るいあすへの小国町を考える

栗林政雄（法坂）

小国に生まれ、そしてそこに住む。我が郷土小国、山紫水明の美しい自然に囲まれた小国をこよなく愛する。愛するが故にそれはまた、明日への我が郷土の発展を心から願わずにはいられない。郷土小国の明るいあすへの夢を、2つ、3つにしぼり描いてみたい。

雪を克服し高速交通時代に対応する豊かな町づくり。

上越新幹線、関越自動車道の開通は、日本の国土を横断する高速交通体系を形成するものであり、21世紀をめざす定住構想の実現には不可欠のものである。今年小国町には2本の国道昇格の実現がなり、新幹線では長岡と浦佐で、関越自動車道は小千谷インターで接続し、小国は、小千谷、長岡、柏崎という広域ブロックで全国高速交通体系に組み込まれたのである。このことは好むと好まざるにかかわらず、メリット、デメリットの両刃の剣の下にあると言える。そこで小国は小国の特殊性の中で、その対応を誤らないことが大切である。交通のもつ利点を遺憾なく生かすには小国のような豪雪地帯では、基幹道路はもとより、各集落内の生活道路に至るまで、無雪化を促進し、整備し雪を克服することが第一の条件である。

メリット、デメリットを予測し対応する。交通網の整備は、人と情報の流れを迅速にし、輸送や商業、工業、サービス業などをはじめとした経済活動や、文化、芸術などの活動を活発にし、生産に直結する工場の進出などを促進することが考えられる。またそれらによって地場産業が刺激され雇用が増大する。そして小千谷、柏崎、長岡圏内は完全に15分から30分となり、通勤や生活面が便利になり、雇用が促進され、所得の増加と相まって若者が定着し、過疎化が止まり発展の道をたどる。

しかしメリットばかりではない、デメリットも当然出てくるわけで、町民はそれらをも予測し対応を考える必要がある。商業は対応を誤ると、小千谷、長岡、柏

崎に奪われかねないし、工業も安い賃金でよいものを生産しても、その成果が地元で還元されないで、中央にのみ吸いとられかねない。また工場の増加は農用地の宅地化となり、農地の減少は食糧供給の減少となる。また公害、水不足などをひきおこすことも考えられる。

さらに時間的に中央と近くなれば、犯罪の広域化につながり、大都市の悪い面が直輸入される危険をもっている。

また都市化の波は、農村の美風である連帯感を弱め、協力互助の精神の欠落が心配される。

わたしたちの対応は、以上のような認識にたつて、町の明日への発展策を展望してみたい。

その1つは観光、レクリエーションの面からみてゆきたい。増大する人の流れを小国にどうとらえるか、それには小国の立地の特殊性、即ち四面山に囲まれた山紫水明の大自然を活かした開発ではないだろうか、森林公園は既に完成して、県内各地から来町しているが、今後更に発展させるには、都会の人達、県外の人をも対象にした対応が必要であろう。山小屋、テント村、キャンプ場を開設することである。東京から1時間になろうとしている。都会の家族連れが、開放されたテントで土・日の1泊、2泊、夏休みなど安い料金で貸して、自分達で山菜をとり、そして炊飯し楽しみながら過し大自然に心ゆくまでひたる。ホテル、旅館などと違った野趣あふる昔にかえったようなことが求められているのではないだろうか。必ずや多くの人利用することまちがいないと思われる。

これらの開発投資はやがて、町に還元されるであろうから検討に価すと考えられる。

2つめは小国平野の中央を荒海川が貫流し、川によって町は東西に分かれ、集落は20キロにも登る。この地理的条件をみると、すばらしい未来が展望される。この両岸に遊歩道を設け、そこに桜と桜

桃を植える、交互に植えることにより趣がかわる。そして小国を桜の名所として天下で紹介する。加治川三里というがその比でない。春は花を愛で、花が終れば桜桃の方は実を結ぶ。多くの人に喜ばれる。秋は紅葉。美化、実益、観光と正に一石三鳥である。これは住民の合意を得て両岸の土地さえ提供すれば容易である。

桜桃は里の中央であれば鳥はこない、現に私の家に4本あるが実証済みである。川ひとすじ、桜十里の宵月夜 田の生まれし、国美しむ。

こんな美しい光景が浮かんでくる。そして町内外、遠く都会からも人々がやってくる。

3つめは、やはり小国の立地条件を生かした大自然に着目するとき、それは八石連峯であろう。朝な夕な東側で八石を仰ぐとき、小千谷柏崎線が開通するとき、壮大な夢とロマンが展開する。八石スカイラインとキャンプ、テント村、山小屋の開設である。眼下に日本海を見はるがし、佐渡を遠くに眺望し、中越一帯をみると、そこに壮大なパノラマが展開するであろう。安沢牧場はすでにあり、山菜の豊庫であり、休息にレクリエーションに、キャンプに、慰安宿泊に、春夏秋冬はスキーに年間を通じて利用できる。森林公園とは質の違った観光の名所となるであろう。

湯花も出ているので温泉としても可能なわけで最大限に活かせば、スケールとしては最大なものになるであろうことは疑う余地のないものである。

4つめは小国の特産物をあげたい、観光やレクリエーションから明日を考えると、小国の特産物はさけて通れないものと思われる。

人の流れが増加し、町外から多勢の人が来て、それぞれ満足し、帰りに小国のそこに行って来た印、象徴、お土産がなかったら今1つもの足りない感じがしなくはないであろうが、事実洋の東西

を問わず、帰りのお土産は欠かせないものである。求めない人は皆無なのではないだろうか、このお土産如何が人を充ちたりた心にし、人から人に伝えられ、語られ次の人がやってくるきつかけとなる。

そして全国にその名が知られるようになる重要なものである。

しからは小国に特産がないのであろうか、地理的条件が悪いのが、人が、資金が、熱意研究不足が、指導者がいないが、特産となるものそのものがないが、今私が列挙したことが全部あてはまるかも知れないが、しかし小国の発展の未来を観光や、レクリエーションからみると、今から町民が真剣に考え、衆知をあつめ観知を出しあつてとりくむ時にきているのでなからうか。

民芸品、山の木の盆栽、切株作品をはじめ椎茸、ナメコ、柿、栗、菓子クルミ、アスパラ、とうもろこし、ソバ、山菜類、またすぐ食べられるものとして、笹寿司

(ぜんまい、身欠など煮上げたものを飯の上のせ笹をしき何層にも交互に押し込んだもの折詰)チマキ2種類あり、加工品として新潟産がとりくんでいる味噌、味噌漬(山菜など含めたもの)、餅など限りなくあげることができる。

そこで先進地を見学したり、学識経験者や若者などで構成する振興会というようなものを組織し、問題点を出しあつて研究することはどうであろうか、製品に至るまで資金面からや、いろいろ困難点もあろうが、グループでもよし、組合方式、集落としてとりあげて団地形式でもよし、とりくみ方はいろいろ考えられるであろうが、ここでは問題提起に止めておく、町民がみんな考えていものである。

終りに、明るいあすへの小国町というテーマに迫るために、新幹線開通、関越自動車道、小国の2本の国道昇格による高速交通体系から、将来の視点にたつて、主として観光や、レクリエーションの角

度から、未来の夢をえがいたのであるが、このほか住みよい環境づくり、農業、工場誘致などや、教育、福祉など、現在社会資本の充実と相まって、行政サイドの努力により着々進められていることは喜ばしい。

本年度を期して役場新庁舎が完成し、21世紀への住民サービスの殿堂として、小国町の象徴となることは意義のあることである。

これを機会に町のセンターとしての機能を効率的に発揮するよう念願してやみません。外観のみでなく、つまるところ「人」である。21世紀へ飛躍するために、企画部門の充実をはかり、先進地への視察見学はもとより、学識経験者を招いての研修、住民への啓蒙や、キャンペーンなどを通して、夢を単なる夢に終らせないよう念願して拙稿を終ります。

佳作 明るいあすの小国町を考える

富沢敏一（橋沢）

昭和31年9月、大きな希望に満ちて我が小国町は誕生した、人口1万6千余人。合併に至る紆余曲折の峻嶒な道程があったにしても、それはひたすら新しいものを求める陣痛であった筈で、事実あの時の激情にも似た感動は、今なお忘却してはいないのである。

まさに新生小国町は旭日昇天の勢いに乗って、輝かしい未来を余見する、高らかに響く産声であったのだ。

そして、矢次早やに行われたものに、町民の大乗的な深い理解と願望によって近隣町村の魁として町内1カ所という画期的な統合中学校の実現、遠隔部落に眼を見張るような小学校の建設、そして文化的活動の核としての中央公民館の設置等、小国町の充実を希求する住民の意志の表現であるこれらの施設は、畢竟、新しい町作りの基本は教育にあることを示唆した行政であり、これは小国町の将来を担う児童の教育を重視し、まず教育環境の整備に力点を置いたということであつて、いかに子供に託す夢が大きいかが認識されよう。

あたかも、戊辰の戦いで廃墟と化した長岡藩の再建に当って示した小林病翁の

「米百俵」の精神の具現であり、この方向は正論を射たものとして間違いはなく、極めて適切な判断だったのである。

私は意識的に教育行政の一面を取り上げたが、諸施策に於ても、つねに熱意をもって、町の骨格作りへ向けてひた走りに進む、まことに意気軒昂の雄姿であったのだ。

しかし、時代の変遷は全く予測出来難い。農業を中心とする我が町を襲った米の生産調整は、有史以来の異常な事柄として農村を驚愕と困惑の渦にまき込んだ。そしてこゝに派生的産物の過疎現象の登場を見た訳である。

大体、この過疎という聞き慣れない言葉が公式の場に現われたのは昭和41年と聞く。

過密と対比的に生れた過疎の定義は、人口減少により、一定の生活水準の維持が困難になった状態、たとえば防災・教育・保健などの地域社会の基礎的条件の維持が難しくなり、人口減によって地域の生産機能が著しく低下し、労働力は高齢化して資源の合理的利用もなされない姿を指すとされている。

厳密に言えば、過疎は米の過剰問題が

噴出する以前に萌芽を見たことになるが、拍車をかけたものは、やはり少なくとも小国町に於ては減反政策が元凶であるといえよう。

昭和40年には、2,663戸、人口12,517人が、10年後の50年には、2,322戸になり、人口はついに1万人を割って、9,662人に落ち込んだことが、何よりもこの事を如実に立証している。

私は敢えて言う。人口の流出をくい止めることが出来なければ、小国町のあかるい明日はないと極論するのを決して憚らない。

特に憂慮することは、世帯数を絶対に減らしてはならない、戻るべき家を亡失してはいけないということである。

一般的に薄れたといつても、小国町ではまだ、家への帰属意識、帰巣本能は高いとみているが、家が存在する限り、いつか翻意する時が必ず到来する信念を私は捨てない。

これは、たんなる希望的観測ではなくて、確固たる愛郷の哲学なのである。

青雲の志を抱いて郷閭を出た若者を再び故郷に呼び返す条件を、ふるさとを出た若者がこの町に踏みとどまれる環

境を、それこそ血涙を流して切り上げるのが、長い歳月の累積によって今日に至った愛すべきふるさとに住む我々の責務なのだ。

これはいたずらに行政におんぶして舌聞せずでは成就しない、1人1人が使命感に燃えて英知を駆使し、苦悩の泥沼を越えて始めて太陽の真に輝く夜明けが訪れるのである。

ここで東京都の、所謂受け入れた側の流入青少年の意識調査を見よう。

まず満足した点は「仕事が覚えられて楽しい」「いろいろな友達と交際出来る」「他人に干渉されず、自立出来る」「自由に小遣いが使え、遊び場や文化施設の利用」の順で、ほとんど男女の差異はない。

逆に不満足なことは「落ち着ける部屋がない」「自由な時間がなく、小遣いが少ない」「仕事や仕事場に不満」が主な指摘であり、そして余暇生活の悩みの中に「郷里のことが気になる」を挙げているのが注目される。このように並べると、若者の定着する条件の輪郭が鮮明に浮上して来た訳で「仕事場が確保され、落ち着いた部屋を持ち、自由な時間が適度にあり、そしてレジャーや文化施設に小遣いが使えれば、郷里のことに思いを馳せながらの都会生活は忌避出来る苦であり、過疎対策の基本大綱をここに置いて、じっくりと腰を据えたきめ細かな行政が肝要である。

まず、企業誘致、これは継続的に飽くことなくやってゆきたい、仕事場は生計の出発点だからである。

人口流出問題に焦点をあてたので、結婚相談員まで行政の手で設けなければならぬ若者受難時代を迎えてどのように対処すればよいのか、論及して見たい。

町の人口の動向を統計的にみても、ことさらに女性の流出が多いという結論は出てこないのである。

しかし、農業を敬遠する傾向に加えて、係業の比較的少ない都会生活を望むのは容易に肯定出来るので、この問題は極めて複雑であり、深淵である。

だが、女性が小国町に住居を持つ限りに於て、町内に嫁ぐ可能性は高い比率で

あるの思考を前提として、まず高校卒の女性を町内及び周辺の都市へ勤務させる努力を最大限に発揮すべきである。

そもそも小国町は長岡・柏崎・小千谷を結ぶ三角形の中心に立置して、いずれの市にも勤められる利点がある。このような立地条件に恵まれた町村は県下でもそう多くはない筈で、今春の国道昇格によって時間的距離は更に短縮されよう。但し、現実には非常にきびしい。たとえば、女性が長岡・柏崎の高校を出て、柏高小国校の場合と同じだと思うが、これらの都市に就職したい意志が十分にあるにしても、まず実現は不可能に近い。それは、おおかたの企業が、1時間近くの通勤所要時間を越えることの出来ない高い壁として、又親元から通うことを原則としている為に、たとえ前述の都市で親類に同居して勤めることすら拒否してしまうのが実情だ。

そこで強く提言したいことは周辺都市に行政の責任で、親元制度による公宅を設置し、そこから勤務することで企業の理解を得たいと考えるものである。

若し、行政の英断で、この制度の確立がなされ、企業の賛同があれば、人口流出阻止の1つの対策になり、嫁飢饉の緩和に少しでも役立つものと、私は信じて疑わない。

住民参加の顕著なものとして、レクリエーションの各種スポーツや趣味の会の高揚がある。近代の歴史の上で、今日ほど盛況を極めている時はあるまい。

住民の意志が疎通し、心が固く結びつくことがなくて、どうしてあかるい明日の町作りが出来ようか、この傾向は益々助長してゆかねばならない。

これに反して低調なのが、文化的な活動である。流出した若者が文化施設の利用が出来ないことを嘆き、離郷の1つの原因にしているが、知的なものをひたすら渴望する思いが強い故であろう。

私の宿願は、就業改善センターの一隅に狭い肩身の図書室でなくて、独立した図書館を是非建設すべきだと思うのである。

それも、図書館の一般的な通念を超越したユニークで風土性の豊かな小国文化

の拠点になる性格を持たせたい。

画廊を併設すれば、写真や書・刺繍作品などの展示に多様に使えるに違いない、更に揚言したいのは、移動図書館を走らせ、町内くまなく智識の配達をして廻り、これを契機に読書のグループまで発展すれば、まことにすばらしいことではないか。

もう、紙面が尽きるので性急に言及するが、逆境に臨み農業は小国の明日を考える時どんな位置づけをすべきであろうか。近き将来、食糧危機がくるといわれるが、しばらくは迫害の時代がつづくであろう。

畑作への活路についても、試行錯誤をくり返して来た過去が重くのしかかってくるが、曙光の見え出した作物もあるので、耕地を原野に戻してはならぬ原点に立って、明日の為に農地保全の努力は惜しんでならないと思う。

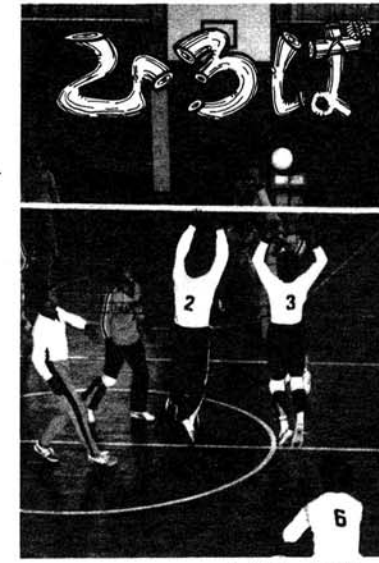
私は過疎対策の一面をつとめて抽象を避けて体的に述べた。それは小国町の遠い将来ではなく、咫尺の明日を考察しなければならぬ使命があったからである。

摸索する真摯な姿勢があれば、きつと解決への道は豁然と開けるに相違ない。農業のかけりが払拭されず、サラリーマンが増える傾向は今後傾斜を深めるであろう。

部落共同体が崩れて、利益共同体に替ってゆく時代であり、いかに質的に変化があっても、長い歴史に裏打ちされた自然の豊かなこの小国町の明日に、決定的な悲観材料は何もない。医療機関は完備に近い形で住民に安堵感を与えているし、縦横2線の国道も脚光を浴びて実現し、みどりを売る森林公園も時宜に適したものとて声価を高めた。

そして、小国町の象徴である行舎は、町民すべての願望と期待を担っていま眼前に雄々しく屹立した。

これらは、他の町村に胸を張って誇り得る我々の不撓の意志の現われであって、この不屈の精神で、過疎現象の克服に行政、町民が密着した一体となって英知をこぼり、行動して、始めてあかるい小国町の明日が訪れることを私は確信するものである。



とうちゃんバレー

小国中2連覇

10月6日、柏崎市で開かれた柏刈中学駅伝大会(7区間・21.8キロ)に出場した小国中Aチームは7区間中6区間に区間新をマークし通算1時間10分7秒で昨年に引き続き優勝しました。小国中Bは3位。

これをうけて10月15日、上越駅伝大会(上越市一柿崎間往復28キロ)に出場、1時間27分8秒の大会新記録を出しましたが、惜しくも2位にとどまりました。

でんでんのコーナー

日頃電報電話をご利用いただきありがとうございます。電々公社・新潟日報社主催の「私たちの住む町」絵のコンクールが本年も行われました。町内小学校児童から多数の応募があり、昨年に続いて好成績を取ることができました。県下の応募数約3,700点の中から、みごと入選された方は次のとおりです。

- *金賞…山岸由利江(中里小6年)
- *#…永見さおり(小国橋小2年)
- *銀賞…田中 充本(中里小1年)
- *銅賞…中沢 ゆみ(中里小1年)
- *入選…山岸 弘子(中里小3年)

越後小国電報電話局・☎3000

川底の石も数える秋の川 中村銀蔵(森光)

以上「記念論文入賞作品、から



「早川橋夕照」

—増田の原と結城野の諏訪井のあはひなる早川橋は、朝日さし夕日輝く、波海川を掉さし下る筏を見送り、白山こしの木々の若葉、川風にうら吹きかへすありさまを眺めやるいとよし。—

—夕日てる早川橋を行く人は
いそぐとすれどくれもこそすれ—

……と詠まれています。

大会の結果

●町民バレーボール大会

- 参加12チーム(10月17日)
- *優勝…スポーツサークル
- *2位…レインボーウイングス
- *3位…アタッククラブ

●第1回ゲートボール大会

晴天に恵まれた10月18日、第1回ゲートボール大会が開かれました。延命荘前の新設コート2面を使い、20チームが参加。トーナメント形式で進められ、集った約200人のおとしよりは、競技に応援にと1プレーごとに歓声をあげていました。

●ゴールドメダル受賞者

10月31日現在

- 北原弥吉、保坂久作、中沢栄一郎
- 青柳 要

こまがらの大会

○剣道大会

- ☑11月28日(日) 午前9時から
- ☑柏高小国体育館

○バドミントン大会(男女個人戦)

- ☑12月5日(日) 午前9時30分から
- ☑柏高小国分校体育館
- 申込み締切りは11月27日(日)
- 申込先—教育委員会(☎3111)



現在の平和橋。早川橋はこの橋より少し上流にありました。

●とうちゃんバレー大会

- 参加8チーム(10月24日)
- *優勝…アタッククラブ
- *2位…レインボー
- *3位…千谷沢スポーツクラブ

●小千谷市民剣道大会

- (10月10日)
- *年少の部3位…中沢和明(中里小3年)
- *年長の部3位…田中 裕(中里小4年)

結果は次のとおり……

- *優勝……太郎丸チーム
- *2位……武 石チーム
- *3位……法 末チーム

新年俳句大会のご案内

- 日時……昭和58年1月3日 午前10時～午後3時
- 会場……就業改善センター
- 兼題……新年雑詠5句 ハガキで投句のこと
- 締め切り……12月5日(日)厳守のこと
- 投句先……町内横沢 原昌雄あて
- 選者……
- 丸山武・市川溪雪・長谷川智弥子・町田片身草・原業村・松田草
笛子・山崎灯谷・小川黄梅・今井勝人・池島千恵子・高橋蛙声・
北原テイ・山口清作・富沢隆務
- 席題……当日10時発表
- 表彰……兼・席題とも20位まで表彰
- ※出席者には、発表誌、参加賞を贈呈、みなさまのご投句と参加を
お待ちしております。

主催・小国町俳句作家連盟

科学研究発表
入賞6人

10月6日、柏崎刈羽地区児童生徒
科学研究発表会が柏崎市で開かれま
した。

小国町関係の入賞者は次のとおり。
〈柏崎刈羽地教委連絡協議会賞〉

- 小学校低学年の部
- ・上小国小1年・江口こうじ
「こつぶをたたいて音のなる研究」
- ・小国橋小2年・鳥居直哉
「いもりのせいちょうのしかた・
かんさつ」
- 小学校高学年の部
- ・上小国小5年・村山 尚
「だ液の研究」
- ・下小国小5年・小林博明

「あみ戸を通してみた電灯の光り方」
・中里小6年・山岸由利江
「森林の植物の育ち方」
●中学校第1分野の部
・小国中3年・佐々木政彦
「水のあたたまりかた」
〔ライオンズ賞〕
・下小国小5年・小林博明

珠算大会で2位に

柏高小国分校は珠算検定試験の結果
2級・3級に23名も合格しました。
この大量合格者と高得点により、柏
崎地区珠算競技大会に参加の結果、
●一般の部2位…小国分校チーム
●個人の部2位…細金かおる(3年)
入賞…小林 良子(3年)
の成績を残しました。

●10月27日現在…就職決定者50名 (県内…9・県外…41)
(事務…14・販売…15・現業…21)

願書提出中…7名
未定者………4名

来春卒業の高校生の就職試験が10月から解禁になりましたが「不況」
「生産工程の自動化」などの影響で、どの高校も就職難であるといわれ
ています。全国的にみると、採用内定が50%以下のところもあるといわ
れます。県内も同様で求人数は前年より18%も減っています。
こんな状況の中で柏高小国分校は、来春卒業予定者61名中、50名の就
職がすでに内定しています。
小国分校によりますと、「職種は事務、販売を希望する生徒が大部分
で大変苦労した。そのうえ大企業を目指すので、今年のように各企業と
も求人数を減らしている現況から、一応満足すべき結果でしょう。県内
各校の未就職率は半々であろうが、本校は未就職率18%。ただし、この
うち7名は合格が予想されるので、残りは4名で未就職率6%になる。」
……小国分校に限っては、就職戦線出足好調というところでは、
柏高小国分校

就職内定率82%

さわやか君



私の作品



おかあさんと私と弟と買いものに行く
ところ・青柳真理子(4歳)若草保育園
書道作品は文化祭出展のため休みました。

「増築の意見まとまる 長き夜」 長谷川スイ(太郎丸)

明るい選挙
推進運動

30周年
記念月間
11月

ハイパワー市民ラジオ撲滅旬間(12月1日〜10日)

おしらせのページ

し尿くみ取り
申込みはお早めに

例年12月1日から翌年2月15日ま
では、冬料金として割増料金をいた
だいていましたが、今年度は冬料金
は廃止になり、18ℓ当り75円です。
また、11月下旬から12月上旬にか
けては例年申込みが多くなりますの
で、証紙を用意され早めに申し込み
ください。

全国物価統計調査のおしらせ

総理府統計局では、11月8日から
全国物価統計調査を実施しています。
この調査は、物価に関する基本的な
統計調査であり、経済運営にとって
大切な基礎資料となります。月末に
かけて調査員が伺いましたらよろし
くご協力のほどお願いします。

おくに荘で映画会

救護施設おくに荘(新町)では、
地域開放事業の一環として、11月24
日午後1時から映画会を開催します。
入場は無料。大勢のみなさんのおい
でをお待ちしております。

- 日時……11月24日(木) 午後1時～
- 会場……おくに荘体育館
- 上映映画…①座頭市と用心棒
②任侠系一代

土地改良区・農業共済組合
森林組合

業務休業のおしらせ
この3事務所が旧役場庁舎に引
越します。そのため11月24日(木)、
25日(木)は業務を休ませていただきま
す。26日から平常業務となります。

《越後交通路線バスの一部改正》

11月15日の列車ダイヤ改正に伴い、越後交通路線バスが次のように改正され
ました。

●小国一塚山一長岡線

小国車庫発	塚山	長岡	長岡発	塚山	小国車庫発
(8:00か) 7:45に	川東 8:12	8:55	(18:40か) 18:50に	19:33	川西 20:00
(12:40か) 12:20に	川東 12:47	13:30	(19:40か) 19:45に	20:28	川東 20:55

●小国一原一大貝線

小国車庫発	原
(18:55か) 19:00に	19:09

●小国一八王子線

小国車庫発	八王子	八王子発	小国車庫発
(7:10か) 6:45に	6:55	(7:20か) 6:55に	7:10

おむすびとサンドイッチ

歳時記
戸外を歩き
まわった後、
青空の下でひ
ろげるお弁当の味は格別です。
お弁当の両横綱といえば、やは
りおむすびとサンドイッチでし
ょうか。おむすびは、ほおばつ
た時に口をひろがるホンノリし
た塩味のおいしいのキメ手です
が、塩は、先に御飯にまぜ合わ
せてから握ると、塩味がまんべ
んなく行き渡りま
す。御飯は冷める
とかたくなるので、
その点を計算に入
れてふんわりと柔
らかく握ってくだ
さい。▼サンドイ
ッチは、パンを切
る前に、包丁を必
ず直火でちよっと
あぶってください。
切りやすく、しか
もパンの断面がま
れいに仕上がります。
▼具をはさん
だら、軽く絞った
ぬれぶきんに包んで軽く押しを
して落ち着かせ、具とパンがよ
くなじんでから切り分けます。
ラップなどに包んで、乾燥しな
ないようにしておべんとう箱に。
水分の多い具をはさむ時は、パ
ターをまんべんなく、少したつ
ぷりめに挟んで、パンに水気が
浸み込むのを防いでください。